

弘前大学出版会より

本の紹介

お問い合わせ先
弘前大学出版会
Tel:0172-39-3168
FAX:0172-39-3171

弘前大学出版会のこれまで

弘前大学出版会は国立大学法人化直後の2004年6月に教育研究活動を支援する役割を担う目的で全国初となる国立大学法人の学内組織として発足しました。その後活発な出版活動が評価されて設立3周年を迎えた本年、有限責任中間法人大学出版部協会に加盟することができました。学術書のほか地域に根ざした書籍も精力的に出版し、これまで37点刊行のうち、設立記念出版の「津軽の華」（弘前大学所蔵ねぷた絵全作品）を始め7点が地元大型書店のベストセラーランキングに入りました。

今回は、近刊書籍のうち地域に関連したものを紹介させていただきます。

弘大ブックレットNo. 2

『青森県のフィールドから—野外動物生態学への招待—』 佐原雄二編（A5判、定価525円）

動物の本質は「食べる」ことである。本書では、食べることを中心に、動物の毎日の生活がどのように成り立っているのかを、青森県内にすむ様々な魚類や鳥類の生活を実際に研究した結果をもとに解き明かしていく。全部で8種の魚と2種の鳥が登場するが、それら魚たちのすみ場は河川、溜池、水田・水路、河口、海岸と多様な場所にわたっている。昼と夜とでは異なった種類のエサを利用する魚の話や、エサの存在に応じて活動性リズムが形作られる魚の話、さらには潮汐のあるすみ場で潮汐に対応するリズムを持つ魚の話などから、魚の捕食者であるアオサギやゴイサギなどのサギ類に話題は移り、それら捕食者がどのようにエサ動物の活動周期を形作っているのか、あるいは逆にエサ動物の活動性によって捕食者の活動周期が影響されているのかに話は展開していく。私たちの身近にすむ動物たちを主人公に、その生活に隠れた秘密が解き明かされる。



弘大ブックレットNo. 3

『Dr. 中路の健康医学講座—寿命を読み解けば健康が見えてくる—』 中路重之著（A5判、378円）

Dr. 中路の健康医学講座

寿命を読み解けば健康が見えてくる

中路重之



弘前大学出版会

本書は著者がふるさと青森県の健康レベル向上を願う気持ちから青森県民の平均寿命の話にかなりの紙面を割いている。しかし、「青森県民の平均寿命」という題材を通して普遍的なメッセージが込められているので、ぜひとも全国の方々にも本書を手にとっていただきたい。著者は、健康であるためには二つのことが必要であると考えている。ひとつは「正しい健康知識」、もうひとつは「健康に対する考え方」である。雑多な健康情報が氾濫する現代において、正しい健康知識を取捨選択するのは容易ではない。これらの知識をどのように組み合わせ、積み上げて、あるべき「考え方」にまでまとめあげていくの

かは、さらに面倒である。すなわち、たとえば「病気予防の情報では何が正しく、また何をなすべきか」には、それ相応の知識と考え方が求められる、ということである。本書では現代人が突きつけられているこの大問題を取り上げ、できる限りの分かりやすい解説が試みられている。

『リンゴ農家の経営危機とリンゴ火傷病の検疫問題 —WTO体制下の構造問題に迫る—』 宇野忠義著（B5判、483円）

おいしいリンゴは、永年の英知と経験、自然・病虫害との闘い・共生のたまものであり、その価値が正当に評価され、再生産できることを待っている。ところが、そのりんご産業が現在重大な危機に直面している。1990年4月にりんご果汁の輸入自由化が決定され、それ以降果汁の輸入が増大を続けており、こうした国際競争と輸入圧力によって極めて厳しい局面に立たされてきた。ことに、リンゴ農家の経営の悪化はかつてない厳しさがあり、耐え難い恐慌的状态に陥っている。

青森県の稲作も同様に厳しい状況にあるが、このような事実は一部の専門家のみしか知らない。広く一般には知らされていないといえる。危機は貿易自由化との関連で発生しており、その根源には1995年に成立したWTO（世界貿易機関）体制の存在とそれがもたらす構造的な問題性を指摘できる。本書では、国際的視野の下で、経営問題と検疫問題を通して、WTO体制の構造的な問題に迫っている。本書はリンゴ産業・農業関係者のみならず、消費者にも是非目を通し、考えていただきたい書物である。（弘前大学出版会 編集委員長 真下正夫）

リンゴ農家の経営危機とリンゴ火傷病の検疫問題
—WTO体制下の構造問題に迫る—



宇野忠義



弘前大学出版会